



サイジャーナル

月刊
25-1・2
第407号

日本サイ科学会 平成 25 年 1 月 1 日発行

本部 〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 郵便振替 00100-2-15344 日本サイ科学会
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

東 北 〒981-0904 仙台市青葉区 旭ヶ丘1-36-1 アサビル201号 佐佐木 康 二 ☎ 022 (279) 0908・FAX 022 (274) 0097	中 部 〒503-0981 大垣市松町1290 山 田 哲 三 ☎・FAX 0584 (91) 1192	北 陸 〒920-0864 金沢市高岡町12-45-1F ホリスティック健康科学研究所内 佐 藤 禎 花 ☎ 076 (234) 6634	関 西 〒659-0011 芦屋市六麓荘町 (事務局) 9-39 木 村 のり子 ☎・FAX 0797 (22) 6425	九 州 〒862-0976 熊本市九品寺 1-9-7 金 子 輝 夫
--	--	--	--	--

年頭のご挨拶

会長 佐々木 茂美

謹賀新年 あけまして おめでとございます。本年がよい年であります様に、お祈り申しあげます。



新年度が日本サイ科学会と会員の皆様方にとってより良い年であります様にお祈り申し上げます。昨年中は様々な面でご支援とご協力を戴きまして誠に有難うございます。本年もよろしくお願い致します。振り返ってみますと昨年より陰(－)の面の方が陽(＋)の面よりも多かつたように思います。新年度もおそらく閉塞感は続き

将来を見通すことが出来ず不安であると思いますが、暗いトンネルを抜けることによって再びよい、新しい発展が来ると言われております。今年は何とかしてより良い年にして戴きたいと願っております。

陽(＋)の面の一番目は2012年7月に報道されたビッグス粒子の確認(発見)だと思えます。世界最大の加速器で捉えられたとの事。宇宙の創生時の物質に質量を与えるメカニズムを解明する事が出来そうであり、40年以上にわたり、世界中の研究者が探し続けてきたもので、世紀の大発見であると言われております。

二番目として、10月には、京都大学の山中伸弥先生のノーベル医学生理学賞(iPS細胞の開発)受賞の発表がありました。日本人としては19人目のノーベル賞で無限の可能性を持つ夢の細胞の開発であり、病気の原因究明再生医療新薬開発等に役立つといわれてお

今月号の記事

- ◎年頭のご挨拶
- ◎計報
- ◎一月本部例会のお知らせ
- ◎二月本部例会予告
- ◎第18回宇宙生命研究分科会予告
- ◎関西サイ科学会一月例会予告
- ◎関西サイ科学会二月例会予告
- ◎関西サイ科学会三月例会予告
- ◎五月本部例会報告II
- ◎六月本部例会報告
- ◎第三七一回関西サイ科学会報告
- ◎第三七二回関西サイ科学会報告
- ◎オーブ(ORB)の出現について

ります。三番目は8月のロンドンオリンピックで日本では史上最大の38個のメダルが獲得されました。精華の主因は「女性」と「絆」で女性の団体種目の活躍が特徴的であり吉田沙保里選手の国民栄誉賞受賞等がありました。さらに8月には米国の火星探査機が火星に着陸に成功して生命の痕跡調査を開始したというビッグニュースもありました。

陰(一)の面は政治経済社会環境、その他で多彩です。しかも、これらは直接的で、生活の基盤そのものなので重要であります。日本における政治の混乱と景気後退は誠に残念であります。世界人口が70億を超えと言われる現今において世界経済の不振は、不安を越えて不気味であります。14ヶ月以上にわたるシリアに於ける内戦状態ギリシャスペイン等欧州における経済不況デモ等、最近では尖閣諸島に関係した中国の過激な反日デモがありました。

日本国内では3・11の東日本大震災後の災害復興原発事故の処置等は終わりを見せておらず現在も深刻であり、進行中であります。他方TVデジカメ携帯電話などを生産する日本の中核産業としての大手家電産業の赤字は巨額でありさらに半導体のルネサス等弱電大企業の景気後退がこれに追い打ちをかけております。これらは世界不況、景気後退、株安、円高、競争激化の結果でありまた相互に関連していると言われております。

環境面社会面を見ると、日本にも竜巻や台風暴風などの襲来がありました。10月の米国のハリケー

ン。フィリピン沖スマトラ沖の地震等も記憶にのこっております。工場の海外移転や景気後退等に関連して生活保護世帯は過去最大の211万人を超えています。年間3万人余の自殺者がありしかも壮年者が多い。医療費の支出は9年連続で増加し続け37・8兆円を超えた。しかしこの約1/2は65歳以上の医療費であるとのこと。認知症の高齢者は300万人を超え10年で倍増した。これらを補うために国の借金は983兆円で過去最大であるが個人の現金預金は844兆円もあるとのこと。悪い

事の後に、良い事がやってくる、と言われております。また低く屈むほどより高く跳び上がる事が出来ると言葉が有ります。陰の部分と正確に捉えて低く屈んで飛躍の基にする事が必要であろうと判断しております。頭を働かせ、アイデアやヒラメキを総動員させて、失敗を恐れずに努力して汗をかく自らを鍛えてそれぞれにベストを尽す事が、いま求められていると考えております。

サイ科学分野について。私達は主として物と心に関係した諸問題を取り扱っております。精神(心)

の分野、特に魂や霊の問題は、科学的な手法による解明は未検討であります。既存の枠組み(再現性因果律)にはとらわれないで現代科学の枠組みを多少越えた部分(精神)をも含めて研究と啓蒙を続けております。この様な方法をとる事により、未知な精神の世界の科学的な解明が期待出来ると思えるからであります。よりよい未来を建設・開拓する為に、努力を続けて行きたい。喜ばれる、役に立つ研究・啓蒙を行い、会員の減少傾向を食い止めて、学会の運営基盤を固めて、研究・啓蒙運動を盛り上げて行きたいと考えております。本年も宜しく、ご指導・ご協力をお願いいたします。

計 報

会員数百名のテレパシー研究会を組織し、会長として昭和42年から約20年間にわたり、「テレパシー」誌を刊行された市村俊彦氏が、十月三日、永眠されました。心からご冥福をお祈りいたします。

一月本部例会のお知らせ

α 波のコヒーレンシーについて

講師 志賀一雅氏

外界からの刺激によらずに観測される脳波は定在脳波と呼ばれ、周波数帯域により δ 波($1-3\text{Hz}$)、 θ 波($4-7\text{Hz}$)、 α 波($8-13\text{Hz}$)、 β 波($14-30\text{Hz}$)と呼ばれています。 α 波は後頭部から閉眼時に強く観測され、目を開けたり考えごとをすると消失することからリラックスの脳波と言われていますが、前頭部から半眼状態の座禅の瞑想中において α 波が計測された報告があり、筆者は自律訓練法における受動的注意集中状態でも前頭部から α 波が観察されることを見出しました。

特に左右前額部から計測される α 波が一定時間コヒーレントになると、その理由は不明ですが、ESPやPKと思われる現象が観察されます。また、2人の前頭部の脳波を同時に計測して一定時間コヒーレントな状態が続くとリーデ

イングやヒーリングが行える状態になるのではないかと思われます。これらの具体的な事例について紹介します。

※能力開発・応用分野における脳波測定的第一人者である志賀一雅先生の、久しぶりの御講演です。で、会員の皆様はご友人・知人をお誘いして是非ご参加願います。

●志賀一雅氏プロフィール

1937年 東京生まれ

1961年 電気通信大学卒業

松下電器産業入社、東京大学物性研究所にて半導体物性を研究
1965年 松下技研にて半導体集積回路、LSIの開発

1976年 東京大学工学部研究員を兼務しアルファ脳波の研究
1983年 株式会社脳力開発研究所を設立 東海大学講師を兼務
1994年 徳島大学工学部講師、日本理科学検定協会理事、日本数学検定協会理事

現在 脳力開発研究所所長、米国バイオフィードバック学会会員、電気通信大学院人間情報学研究所研究員 工学博士

日時 平成25年1月12日(土)

午後1時半～5時

会場 北とびあ7階701会議室
交通 J R京浜東北線王子駅下車
徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 会員 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円
学生 一〇〇〇円



二月本部例会予告

「疾病を根本から改善する」
新治療法を求めて

講師 宇治橋 泰志氏

I・H・M LLP (国際先端医療技術有限責任事業組合)

免疫整体「こころ一番」

「なぜ人は病気になるのか？」
私達人類はこの永遠のテーマに向かつて、懸命に努力してまいりました。

しかし、結果は実に無惨なモノ
で、例えば生活習慣病死亡率第一

位のがんなどは、早期発見早期治療を唱えて久しく、あらゆる最新医療技術と膨大な資金を投入しても減るところか未だに増え続け、そのため国家財政をも危うくさせております。このことは、何を意味しているのでしょうか？

どうやらこれらほとんどの疾病は、加齢、悪しき食生活、ストレス等から、血液(体液)が汚れて行くことに主因があるようです。血液が汚れると体内の免疫体制も乱れ、結果として、がんなど生活習慣病や、難病等、様々な病気が発症されると考えられます。

先般、温暖化等による世界的環境異変が問題となっておりますが、生体内においても同じことであり、様々な生命の共生の場である体内環境こそ、人の健康にとって何より大切な問題であるようです。

一例ですが、血液中には、共生微生物(既に血液中に観察されている微粒子)が棲みついております。当組合および当院では、それらを観察・研究しながら、血液浄化に優れた効果のあるAWG療法(目的に有効な特有の周波数をシーケンシャルに発生できる任意波動発生器を用いた療法)を取り入れ

た施術、すなわち、免疫・リハビリ・システム(MRS=immunities Rehabilitate System)を行っております。

第3回目の今回の講演は、「体内共生微生物の詳細」と「病気の根本原因」、そして、「治療法と予防法」について、主に触れて行きたいと思えます。

※これまでに2回、二年毎にご研究の進歩を発表いただきましたが、またAWG療法の新しいデータも含めてお話しいただきますので、会員の皆様はご友人・知人をお誘いして是非ご参加願います。

●宇治橋泰志氏のプロフィール

昭和17年4月5日 長野県塩尻市生まれ。昭和35年 丸善石油㈱(現在のコスモ石油㈱)入社、以後約30年間、石油と石油化学の世界で主に技術屋として勤務。平成6年退社、平成9年(株)高ボッチ代表取締役となる。平成15年 免疫力・リハビリクリニック開業(両国)。平成17年 免疫整体「こころ一番」開業(クリニック閉鎖)。平成18年 国際先端医療技術有限責任組合設立、総務担当。平成22年 日本

防医学推進委員会に認定される。平成23年「MRS」が優秀な知的所有権として東久邇宮記念賞を受賞。平成23年「MRS」による治療行為等に対し東久邇宮褒賞受賞。現在に至る。

日時 平成25年2月9日(土)

午後1時半～5時

会場 北とびあ7階701会議室
J R 京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 会員 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円
学生 一〇〇〇円

※3月の本部例会はお休みとなります。

第18回宇宙生命研究分科会

第5回ヒポクラテス・シンポジウム

テーマ「自然治癒力について」

日時 平成25年3月31日(日)

午後1時30分～5時30分

会場 品川健康センター第3会議室
品川区北品川3・11・22

03・5782・8507

交通 京浜急行新馬場駅徒歩2分

J R 京浜東北線大井町駅東口から東急バス渋谷駅行で「新馬場駅前」下車

会費 一般 五〇〇円

会員 一〇〇〇円(日本サイ科学会・サトルエネルギー学会・太陽の会・日本空中現象調査委員会)

※会員以外の方の参加も大歓迎

関西日本サイ科学会 一月例会のお知らせ

出口王仁三郎の大復活

講師 櫻井喜美夫氏

日時 平成25年1月19日(土)

午後1時半～5時

会場 大阪科学技術センター
七〇一号室

交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車

北へ徒歩5分 靱公園内

会費 会員 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円
学生 一〇〇〇円

問合せ 0797・22・6425

関西日本サイ科学会事務局まで

関西日本サイ科学会 二月例会のお知らせ

魂にひびく瞑想

講師 鹿毛俊孝氏

日時 平成25年2月16日(土)

午後1時半～5時

会場 大阪科学技術センター
七〇一号室

交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車

北へ徒歩5分 靱公園内

会費 会員 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円
学生 一〇〇〇円

問合せ 0797・22・6425

関西日本サイ科学会事務局まで

関西日本サイ科学会 三月例会のお知らせ

千鳥学説とは

講師 酒向 猛氏

日時 平成25年3月16日(土)

午後1時半～5時

会場 大阪科学技術センター
七〇一号室

交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車

会費 会員 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円
学生 一〇〇〇円

問合せ 0797・22・6425

関西日本サイ科学会事務局まで



命とソマチットと般若心経の探検(つづき)

講師 徳永康夫氏

般若心経について

50歳を過ぎていろいろな悩みを抱えた時に、般若心経に出逢いました。最初は解説書を片っ端から読みましたが、どれを読んでもいいことが書いてあるのですが、原文の意味がよく分かりませんでした。

般若心経の中で一番有名な文字「空」という言葉の解釈で皆迷路に入っています。ところが、私に言わせると、「空」というのは、この世とあの世、肉体と靈魂、要するに人間が二重構造であり、宇宙が二重構造である」ということを前提に解釈すると、パッと分かっってしまうのです。「空」という言葉は皆ものすごく難しく、哲学的、宗教的に解釈してしまっているのです。ところが「空」は「空」なんです。漢字で「カラ」ということ

お経は元々インドの古代のサンスクリット語なんです。それを中国の三蔵法師、すなわち玄奘三蔵さんが中国語に翻訳して持ち込んだのです。そのとき「空」という文字を使ったのです。元々サンスクリット語ではなんとというか。



「シューニャ」というサンスクリット語で、その元々の語源は「膨らむ」という動詞です。その「膨らむ」から転化した名詞なんです。だから、例えば風船を膨らませると中は空(カラ)に見えますが、全然何もなかったわけではないですね。「シューニャ」というのはそういう意味の「空」と訳したの

です。「ない」というのでしたら、「無」という文字がありますね。般若心経の中には、「無」という文字が16くらいあったと思います。ですから「無」と「空」は使い分けております。

しかし、私が訳した言葉は、「あの世から見ると、この世は実体のない『空』のようなものだから、あまりよくよ悩むものではない。」、それは死んでしまえば、あの世に行くのだから、この世で見聞したすべてのものは消えてしまふんだよ、一部大切なことは魂のほうに知識として蓄積されるけれども、この肉体をもってこの三次元の世界で経験したかったことではないことは、その場で消え去ります。だから、「空」のようなものだから、嘆いたり、怒ったり、恨んだり、妬んだりするような感情の起伏に惑わされなくていいんだよ、ということを「空」だとしたのです。この世の次元でいくら「空」を考えても答えは出てこなかったのです。あの世の次元で見ればいいのです。

「般若」はサンスクリット語の「パンニャ」を中国語に音写した

ものです。サンスクリット語で智慧を意味する「プラジュニャー」の俗語が「パンニャ」で、それを中国語の「般若」に替えたのです。「波羅蜜多」は「パラミター(彼岸に到る)」を音写したものです。それを日本語読みで「般若波羅蜜多心経(はんにゃはらみたしんぎょう)」ということになるわけです。このことを知って、般若心経の意味が分かるようになったのです。

「般若波羅蜜多」は「彼岸に到る智慧(ノウハウ)」ということになります。死ねば彼岸に行けるのですから、ノウハウなんかいらぬのに、取ってわざわざ「彼岸に行くノウハウ」と言っているのは、何かほかの意味があるはず。そうすると「生きていながら、あの世に行くハウツウがある」と考えられませんか。自分で体脱をして、あちこち訪ねて調べたり、死んでも生きているんだ！宇宙の仕組みはこうなっているんだ！と調べた人がいます。菩薩やお釈迦様あたりもそのくらいのノウハウは持っている可能性は十分あると思いませんか。お釈迦様が瞑想して、体脱して色々な宇宙の仕組み、あの世とこの世の仕組みを知

って、我々に教えてくれた、そう考えるとすつきりしませんか。

般若心経の終わりにある「故知般若波羅蜜多 是大神呪 是大明呪 是无上呪 是无等等呪 能除一切苦 真实不虚 故説般若波羅蜜多呪」は、「だから、『彼岸に行くノウウハウ』を知る必要があるのだよ。それは大いなる真言(マントラ)であり、光明となる真言であり、この上ない真言であり、比べるものもない真言である。その真言は、一切の苦を取り除いてくれるものであり、これは真実であって、嘘偽りではないのである。だから『彼岸に行くノウウハウ』の真言を説こう。その真言は次の通りだよ。」ということだ。

ここからいよいよ、出家できないお釈迦様の教えを直接聞いて修行することも出来ない、一般の衆生に対する、悟りを得るための「真言(マントラ)」が明かされます。「羯諦 羯諦 波羅羯諦 波羅僧訶 菩提薩婆訶(ぎやーていぎやーてい はらぎやーてい はらぎやーてい ほじそわか)」を日本語に直訳すると、「行った行った 彼岸に行った 悟りよめでたし」

となり、ちょっとズッコケてしまいます。

結論として、「般若心経」のストーリーは、弟子の舍利子のお釈迦様への質問「お釈迦様の教えに接する機会のない一般の衆生はどうやって悟りを得られるのか？」に対し、瞑想中のお釈迦様に代わって、観自在菩薩が全ての苦を取り払う真言(マントラ)を衆生のために示した、という教えだったのです。ですから、般若心経は一つの方便であって、仏教の教えの精髓を凝縮したお経というものではありません。

「般若心経」は書き写すだけでもいいことが起きると言われます。私は前の妻を平成15年に亡くしましたが、そのときに病院で19時間ずっと娘と一緒に付き添いました。医者が「亡くなりました。」と言ったときに、般若心経を娘と一緒に唱えました。それまで妻の口の中にパイプが入っていたりですごく苦しそうな顔でいたのですが、般若心経を唱えてあげた途端に、顔がすっと穏やかできれいな顔になったのです。だから、目に見えないパワーがあるのは本当だな、と

思いました。

ソマチットについて

まず人間の血液の中に見えるソマチットをお見せし、次に貝の化石を粉にしたものの中に見えるソマチットをお見せします。

※映像を見せながら

これは貝の殻を20〜30ミクロンの粉にし、水素水に漬けていたら、こういう黒いものがチヨロチヨロ出て来ました。この貝殻は2500万年前の化石で、これを塩酸で溶かすと、この膨大な量のソマチットが現れました。これから何が分かるかといいますが、2500

0万年前にいたカミオニシキガイの中にソマチットがいた、そしてカミオニシキガイを塩酸で溶かして出て来たので、間違いなく貝殻の中にソマチットがいたことです。したがって、これらのソマチットの年齢は2500万歳ということになります。また塩酸で死ななかつたことも大きなことで、バクテリアならすぐ死にますが、ソマチットは元気に動いています。不思議ですね。

これは植物の中、すなわち花粉の中にいたソマチットです。花粉

の中でこのダンスを踊っているように見える多数の小さい粒がソマチットです。花粉は20ミクロンありますが、その花粉のカラを破って中味だけ出して集めたソマチットです。

私は、ソマチットの名付け親で長年ソマチットを研究しているガストン・ネサンに会うために、カナダのケベックへ行きました。彼の発明した位相差顕微鏡というのは3万倍(通常の顕微鏡は千倍くらい)の倍率があります。それで血液を見ますと、赤血球の周りに無数に動いている小さいものがソマチットです。

ソマチットというものは大変小さい存在であって、生きているらしい、長命である、塩酸でも硫酸でも死なない、真空状態でも酸素状態でも死なない、熱を1200度にも上げて死なない、マイナス60度でも死なない、おそらくマイナスイナス273度の絶対零度でも死なないでしょう。

ソマチットは不死の存在であり、子供を作って増殖し、16段階に変身するので、生命体ではないかと推測されます。



六月本部例会報告

密教開運術

「強運の成長戦略提言 ～ 氣を高めれば運はやつてくる」

講師 松永修岳氏

(ラックマネージメント・フォーラム代表)

「運と風水」というのが、私の一番の専門領域ですが、運とは「氣を運ぶ乗り物」、氣とは「情報をもったエネルギー」というのが私の理解であります。運が良いというのは、自分にとって都合のいい情報とエネルギーに満たされていることをいいます。

皆さんは運とか氣とか見たことがないですよ。せいぜいオーブみたいなものはいろいろご覧になったかと思いますが。

※写真を順に見せながら

例えばこれが家の前を動いている大地の氣です。氣には、天の氣と人の氣と地の氣の三つの種類が

あります。大地の氣はDNAと同じ二重螺旋構造で動いています。この家の前を通り過ぎていきますので、この家は栄えませんが。氣が入って来ない家なのです。氣が家のほうを避けちゃっているのです。



例えば、そういう家の特徴は、植物が家から離れるように外に向かって伸びる習慣があります。家に向かって樹木が伸びてくるのは、家のほうに氣が流れてくるということです。植物の向く方向というのは、氣が集まる方向に必ず樹木は動きます。ですから家を避けているというの、その家には氣が入って来なくて、栄えないということになります。

次の写真は地の氣が家の中を動いておられます。私は普段でもこういうのが見えているのですが、カメラに撮ると皆さんも分かるのです。私が撮っていないけれども、私がおそばにいと氣が写ります。能力や幸運や不運も移ります。

地の氣は、「健康と安定性」と関わり、天の氣は「チャンス」と関わっています。昔の人はこういうのが見えた人々が沢山いたと思います。地の氣は「地龍」とも呼び、大地の龍なのです。二重螺旋がまさにウロコに見えるでしょう。

これは天の氣です。月の氣を撮影したのですが、天の氣を引っ張り出して、家の中にもつてくる、これが風水です。氣を家にもつてくるのが風水です。神社・仏閣すべて風水建築です。月の氣を家にもつてくると、「運がツク」のです。「ツキ」というのはここから来ているのです。

これは神殿から出ている氣を撮影しています。神社・仏閣ともエネルギーのいいところは神殿の中からもものすごく氣が出ています。そうでないところは全く出ており

ません。ただお社があるだけです。

これは建築中の風水住宅で、人脈が集まるようにしてくれ、ということ。人脈の氣は、少しピンク色を帯びています。

こちらは、パリのミレニアムオペラホテルと、ノートルダム寺院の中に動いている地の氣です。

ガソリンスタンドを埋め立てた上に建てたマンションに集まってくる氣は、汚れた氣となります。墓地に集まる氣は黒い邪氣が多くなります。

面白いことに家の門に「家紋」があると、邪氣をはね返します。「レイ・ビトン」のマークも日本の家紋を参考にして、造られました。あの「LV」のマークもエネルギーをもっています。

地鎮祭というのは単なる形式的行事ではなく、大地の邪氣を抜くことが目的なのです。

我々の眼は光の波長が、380ナノメートルから760ナノメートルの範囲で見えています。その前後の波長は肉眼では見えないのです

が、私みたいな特殊な人間はこの幅を超えているので、気を捉えることが出来るのだと思います。

この写真は、今年の一月の元旦に私が、孔雀明王の護摩を焚いているところです。前と後ろで同時に焚いているのですが、前のほうをよく見ていただくと、炎が孔雀のような頭になっています。私が腕を上げると、炎の中に毘沙門天が出てきて、私の動きと炎の毘沙門天の動きが連動しています。

真言密教の護摩法のご祈祷は効くのか、現象を起こせるのか?と私が22、23歳の頃本山博先生のところまで少し修行をしていまして、AMI(本山式経絡臓器機能測定機)で測定したら、チャートで膀胱経の経絡が他の経絡と比べてばこっと凹んでいます。次が護摩を受けた後のチャートですが、膀胱経が改善されています。こういうふうな現象が起こせるのが、ご祈祷の世界で、信じれば救われるというのは嘘で、信じなくても現象は起こせるのです。

真言密教における護摩は、大脳

生理学から生まれた技法で、護摩の炎は人の考えを深くさせるように、脳へと働きかけていきます。護摩の炎そのものが10ヘルツのミッドアルファ波であり、密教の阿闍梨は護摩を焚きながら脳波を10↓9↓8↓7↓6ヘルツと周波数をどんどん変えていきます。そしてある意味では集団催眠のような形で変性意識状態にして、体の治療に入ります。

炎を見つめることで、脳の第三脳室の視床と視床下部と呼ばれる場所が刺激されます。視床下部は人間の本能や欲望・感情の働き、自律神経系を総合的にコントロールしている大切な器官です。そこを最も揺さぶるとというのが、密教のご祈祷です。この第三の眼と言われる視床下部が炎を見つめることで刺激されて、心と身体が整っていきます。これが護摩の脳科学的な側面です。

心の持ち方が身体に強い影響を与えるということは、古来から言われてきました。現代はそれを音声認識によって、脳の状態を全部証明することができるようになっ

てきました。

例えば「マントラ」というのは言葉ではなく、仏の音声なのです。肝臓が出している周波数に共鳴するマントラ、心臓に共鳴するマントラ、鼻に共鳴するマントラ、耳に共鳴するマントラ、・・・がありまして、それは全部音声であってそれは全部脳に行くわけです。

脳はその音声情報によって、βエンドルフィンを出したり、ドーパミンを出したり、アドレナリンを出したりします。まさにその音声は世界共通です。

ここに近年、光吉俊二博士が開発した音声から心の状態を分析する、つまり脳の自律神経の働きとホルモンの状態を一瞬にして判断してしまうという測定器があります。例えば本等に「うれしい」という気持ちで「うれしい」と言えば、表示される色で分かります。

西洋医学では胃が悪いと胃の治療をしようと思いますが、密教の医学は全部脳が悪いと考えます。ですから脳を治さなければダメなのです。そして、脳は環境と心に影響されるのです。感情が意識を支

配するというのは愚か者なのです。意識が感情をコントロールするのです。この感情こそが人間の病とも関係するのです。

どんな音声を出しているのか、それによって自分の脳の状態を正しく捉えることができれば、様々な病気に対処できるということですから、この装置は東大の先生が開発して、東大の医学部で臨床してきただけです。

週に一回以上、教会に通っている人の場合、無宗教者と比べて2割以上も寿命が延びるという調査が発表される等、その研究発表は1200例を超えているといわれます。

特に有名なのは、サンフランシスコ総合病院のCCUに入院していた393人の心臓病患者による実験で、他人に祈られた患者はそうでない患者よりはっきり治療効果が上がるといことが判ったのです。また、この実験から祈りの効果は距離と関係しないことも判りました。病院のすぐそばで祈るのも、何百キロ離れたところから祈るのも、効果は全く同じだといふことです。従って、病人のすぐ

そばにいたることができなくても、遠くから祈ってあげるだけでも、病状の進行を防いだり、傷みを和らげることができるとのことです。

さらに他のグループの実験で、祈りの経験の長い人ほど祈りの効果が大きいかも判りました。また、「無指示的な祈り」は「指示的な祈り」より効果が大きいことも判りました。「指示的な祈り」とは、例えば、ガンが治癒すること、苦痛が消えることなど、祈る人が特定のイメージを心に抱いて祈ることです。いわば祈る人は、宇宙に「こうしてくれ」と注文をつける祈りです。それに対して、「無指示的な祈り」は、なんらの結果も想像したり、注文したりせずに、ただ「最良の結果になってください」とか「神の御心のままにしてください」と、宇宙を信じてお任せする祈り方です。

実験結果では、「指示的な祈り」と「無指示的な祈り」のどちらも効果が上がりましたが、「無指示的な祈り」の方が「指示的な祈り」の2倍以上の効果をもたらすことも多かったのです。研究者たちは、この結果を見て、「科学的な見地から見れば、どうすべきかを知って

いる『力』が存在するという事実

は衝撃的です」と語っています。

祈りによって愛にあふれた知性とつながる時、その「どうすべきかを知っている『力』」は、祈りの対象を最適な状態に向けて動かし、その対象の本当のニーズに最も合った方向へ導くのです。

※ここから運を上げるための様々な知識と方法(前半)を箇条書きします。

これからの時代は「運」は幸せになる条件

・努力が結果に結び付かない成熟社会の始まり

・経済的身分が固定された階級社会の始まり

貧困の世襲、不運の世襲、代々貧しさを受け継ぎ、不運を受け継ぐ階級社会

富の世襲、強運の世襲、代々豊かさを受け継ぎ、強運を受け継ぐ階級社会

不確かな時代

「運」がよくないと結果が出ない
どんなに努力しようが、脳力が高かろうが、一流大学を出ようが、

運が良くないところまでいっても、結果に結びつかないのが現実

努力と脳力を結果に結び付ける力こそ「運」

先が読めない時代に最もやるべきことは「自分の運を鍛えること」
運がいいこと以外に生き残れない時代が加速している。長生きしただけは運が良いこと。

実力のない人には仕事において、運もツキも関係しない。実力が高まるにつれて、運やツキは最も重要なファクターとなる。

ツキや運などないという人とは？

その人は間違いなく仕事で活躍していないか、謙虚さのないごく慢な人間といえる。

なぜなら活躍している人や成績の良い人たちは、ツキや運がなくして大きな成果をあげることが出来ることを知っている。

努力ならば負け組会社の社長の力で努力している。

ツキや運は人間の潜在脳力を引き出したり、高めたりする不可視な力を持っている。

ツキや運のある人の目立った特徴

1. 自分はツキがある人間だと思っっている
 2. 今までも運に助けられた経験がある
 3. 仕事においてツキや運のある人間とかわっている
- ↓さらにツキや運のある人間が集まってくる

この時代、結果を出すのに最も必要な3つの力

1. 変化を読み取り、流れを変える力
2. 自己課題設定力
何をどうやって実行するのか
3. 運の成長戦力
運を経営戦略に組み込む

運力を上げるのに必要な3つの力

1. 明るい性格を鍛える
明るくないと流れを変えられない
2. 人の話を感動して聞いたり、好奇心を持って聞く

話をよく聞かないといい情報を得られない

3. 尊敬され、人に好かれる自分を鍛える

好かれたいと人を動かさない

運をも経営戦略に取り入れることが必要

1. 成功とは誰かが自分にしてくれること

2. 成功へと導いてくれるのは、自分ではなく他人

3. 他人が協力してくれないと成功できない

すべて他人がカギ

誰と出会うのかそれも運

運命はすべて出会いと運と絆で決まる

人、土地、住居、ペット、友人、パートナー、・・・他

運に好かれる人は人にも好かれる人

仕事の脳力は人脈運で決まる

人脈運は自分の可能性を広げてくれる

運に好かれたければ人に好かれることだ

(つづく)

第三百七十一回関西日本サイ科学会研究集会報告

第1部『真実さえ広まれば世界は今にでも理想郷にできる—代替医療の現場から—』

第2部『科学から見た地球空洞説』

講師 藤枝 縁氏

とき 平成24年9月15日(土) ところ 大阪科学技術センター

【藤枝縁】(ふじえだえにし)氏は1980年生まれ。31歳。早稲田大学理工学部資源工学科卒。東京大学大学院新領域創成科学研究科修士課程卒。

Lighthood 代表。月々金は大手広告代理店に勤めるサラリーマンであり、かつ『週末』社会起業家。代替医療、食文化、心の健康、経済システム、精神世界など多岐に渡る講演を全国で手がける。

第1部概要 代替医療により日本の医療費負担は激減します。

・副作用のない癌の対処方法「丸

山ワクチン」

・カナダでは認可が下りている抗がん剤「714-X」(通称ソマチッド療法)

・分子薬理的な糖尿病への効果が発表されている「ステビオサイド」

いずれも、安価で副作用がなく、完治に近い結果をもたらすと言われています。



第2部概要 科学からみた地球空洞説

地球はやっぱり「がらんどう」だった。内側の世界に文明が存在する。

真実を知り、広める事で自分と大切な人々を守る術をお伝えします。

第1部『真実さえ広まれば世界は今にでも理想郷にできる—代替医療の現場から—』

私(藤枝エニシ)自身も、転職した先の会社での異常な激務とパワハラからうつ病を経験した。「うつ病は心の風邪である。よってうつ病も服薬と休養で治す」という心療内科や大病院の精神科の先生方の指導のもと治療に専念したが、症状は悪化するばかり、副作用も酷いものであった。「このままでは近い将来に廃人化する」という危惧から別の治療法を探し、結果的に催眠療法による早期回復で社会復帰した。

「服薬と休養」という精神医療の世界の常識は、私に限っては全く効果のないものであった。逆に治療に貢献したのは、国家資格も持たない単なる一個人のセラピストであった。ここから、世の中の常識に対する疑念が生じた。世の中で難病と言われているものに、本当は廉価かつ根本的な治療法が存在するのではないかと。

ネットを含めて種々の文献を当たってみると、実に色々な情報が

見つかった。それも明らかにオカルトや噂といった次元のものではなく、既存の科学の検証に十分に耐えているものばかりである。

例を挙げると、

- ①カナダの厚生省で認可が既に下りており、末期癌の患者に対して癌治療の一つの選択肢として認められている「ソマチッド療法」
- ②癌細胞をコラーゲンの膜で包囲し、転移や増殖を抑制する「丸山ワクチン」

- ③2006年の日本糖尿病学会にてその分子薬理学的な血糖値低下作用のメカニズムが解明され、既存の薬効成分「ピオグリタゾン」の数百倍の効果をもちかつ副作用が無い「ステビア発酵濃縮エキス」等々。

現代の世界は資本主義で運営されているため、出来るだけカネが掛かり、長引かせ、根本的な解決にはならないという治療法が最終的に残るといふ不幸な仕組みになっている。マスコミはスポンサーである製薬業界の顔色をうかがい、前記のような治療法の特番など組めない。製薬業界と政官は治験と天下り先という蜜月関係のため、あうんの呼吸で隠蔽に走る。お医

者様は点数にならない自費診療などやっても仕方がない。こうして、本当の治療法は患者以外の誰にも歓迎されず、日の目を見ないのである。

しかし、インターネットという個人一人一人がジャーナリストたり得る情報発信の手段を手に入れた今、こうした情報統制は風前の灯火であり、全ての真実が表に出る日は近い。燃える水、空気で走る車、電磁波の影響を無くす技術等々、今後は素晴らしいものが目白押しである。

第2部『科学から見た地球空洞説』

古今東西、地下に潜っていった先に地上とは違う別世界の文明が栄えていたという伝承は枚挙に暇が無い。チベットの山奥でダライ・ラマが守る経典にはアガルタと呼ばれる地下世界のことが記述されているし、大戦直後に北極を飛行していたアメリカ軍パイロットが地下世界を写真に収めている。また、ノルウェーの漁師が地下世界に迷い込んで数年という時間を過ごした際の記録が本として残っている。

地球は中身がぎっしりと詰まった球体構造で、中は高温・高圧のマグマが対流し、中心部にはコアと呼ばれる金属の塊があると教えられてきたのであるが、地球が空洞であるという前提に立たないと説明の難しい事象が多く存在する。

例えば

- ①海溝へ潜っていくと、計算よりも遙かに速く重力が弱くなっていく。
- ②全ての大陸がバラバラになる方向へ移動していく(風船の表面に塗った泥を乾かした後に膨らませたように)。
- ③大陸上の起伏に比べれば穏やかなものの、海面にも明らかなる高低差があり、最大100mにも達する。これには等高線を引くことが可能で、常に一定で不変である。これは間違いなく重力場に強弱が存在している(これは内側の空間の山脈の存在によるものと推測される)。

このように、現代科学の目で見ても今の地球科学を支えている理論が存外に弱々しいことが分かる。逆に内側世界からもたらされ

た情報を見ると、地球が物理的に空洞であることが必然と思えるようなことが多々ある。

- ①内側世界の人々は平均身長7m。植生も動物も非常にサイズが大きい(内側世界はその物理的構造により、重力が地上よりも遙かに弱くなる。また、電磁波のレンズ効果で生まれるプラズマ球としての太陽が24時間照っている為、夜がないため植物がよく育つ)。

- ②前述のパイロットが迷い込んだ空間の気温は摂氏23度。北極ではあり得ない数値である(夜も季節も無い空間であるため、どこでも小春日和)。

- ③人間の生体リズムは太陽よりは月に支配されていると言え、内側世界では時間を計る唯一の手段が潮の満ち引きである。これは内側の世界からは見えないが外側に存在する月の影響である(実は地上人のルーツは地下世界にあるのではないか?)

現代の地上の科学では、地下世界の存在を検証しようにもそこまでの掘削の技術が無いために不可

能であるが、このような地下世界
の存在を前提に置くと、地球科学
の謎の多くが解けていく様子は非
常に興味深いものである。私はバ
ミューダトライアングルに地下と
地上を繋ぐ何かがあるとみて調査
を続けている。

☆ ☆

現在の医学は資本主義のもとで
金儲けできる技術に偏ってしまっ
たようである。これらが明らかにな
れば増加し続ける膨大な医療費
も許容のところまで下がるのでは
あるまいか。

常識とされていることにも、ま
だまだ知られていないことが多い
ようだ。

しかしこれらも次第に表に出て
くるであろう。

当日の参加者は会員15名、非会
員19名、合計34名でした。今回
のカセットテープは20000円
です。事務局(0797・22・
6425)まで

(関西日本サイ科学会会長

河野 明夫)

第三百七十二回関西日本 サイ科学会研究集会報告

神様がいるぞ

講師 池田邦吉氏

とき 平成24年10月20日(土)

ところ 大阪科学技術センター

池田邦吉氏は1947年東京生
まれ。1969年東京工業大学建
築学科卒。

著書：明窓出版より『あしたの
世界 シリーズP・1〜P・4』、
『光のシャワー』、『ノストラダム
スNo1〜No5』が発刊済。

手翳しのヒーリング(霊気ヒー
リングとかチャクラヒーリングと
も言われる)を続けているうちに、
同じ症状の患者で治る人と治らな
い人がいることがわかった。治る
人には守護神がいて、その神様の
応援がある。

人は肉体と精神と「たましひ：
魂」との三位一体の存在であって
魂は神のエネルギーの一部である。
これを神道では「分け御魂」とい

う。人は神が作った神の乗り物で
あるから、誰しも守護神がついて
いるはずであるが、ヒーリングで
病気が治らない人は神から見放さ
れている人であった。



神々のことを知っていた方が、
病気が治りやすいということが分
ったので、本を書いた。

『神様がいるぞ』(15000円)
平成24年7月1日明窓出版より出
版することになった。

ヒーリングすると神様・その人
の守護神がおりてきてその守護神
と情報交換する。その一方で19
93年から預言書を研究している。
そこでは創造主 the creator がノ
ストラダムスに未来のことを教え
たと書かれている。当時創造主の

概念が日本に無いので困った。以
来その創造主がどのような神であ
るかについて興味を持つことにな
った。

資料No1の①、②、③、④、⑤
の神々は宇宙を創った神である。
初めの存在は無である。自分を認
識出来なかった。

初め空間には光しかなかった。
意識体のみがあった。それがあめ
のみなかぬちの神。

比較の相手がいなかったため、
素晴らしいとは何か理解出来な
かった。

意識というエネルギー。一部は
全体より少ない。自分を分割する
ことでこれとあれが存在するよう
になり、認識することができるよ
うになった。

こうしてこれ、あれ、全体の三
つが発生した。

石ころにも意志がある。あらゆ
る物質に意志がある。

神は初め光をつまんで渦を作っ
た。右回りと左回り、たかみむす
ひの神とかみむすひの神が生まれ
た。このようにして電子、陽子が
出来、原子が出来ていく。

記紀に登場する創造主たち

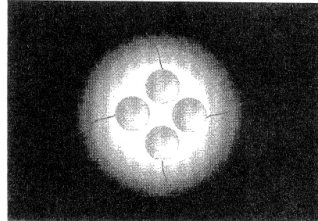
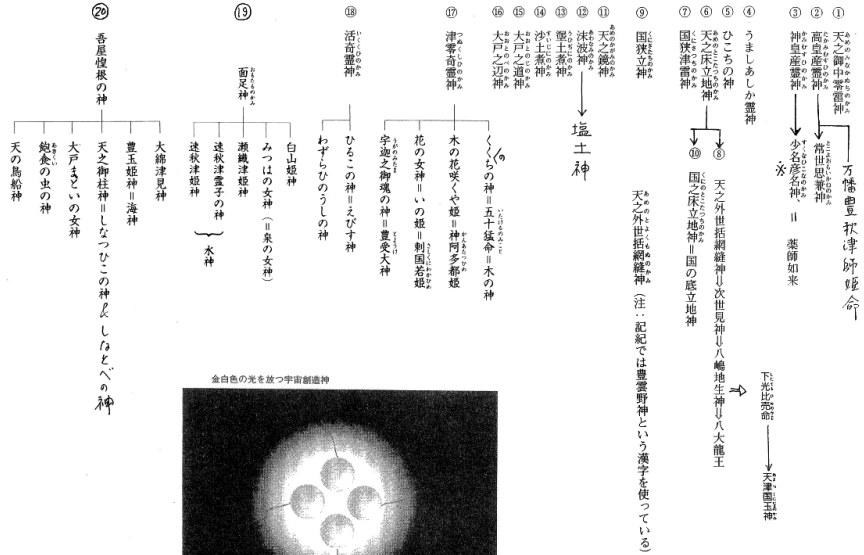


図2 1圖の「神の球体」の中には、さらに数個の球体が

次いで資料No1の
 ⑥あめのとこたつちの神が、銀河系の中に星々を創った。
 ⑧あめのとよくもぬの神は天之床立地の神の分神。

⑩くにとこたつちの神が地球を創り、岩盤を創った。
 ⑬つぬくしひの神と⑱いくくひの神は生命発生の神。
 これら18柱の神々が集まり、40

億年前地球に陸地を創るための会議を行った。

いざなぎ気、いざなみ実はその会議ではオプザーバー的存在であった。

創造主たちは2000万年前に人間を創った。

1900万年前、シリウス星に黄色系人類が創られ、プレアデス星に黒人、白人が創られた。

やがてプレアデス星には住めなくなつたので他の銀河系に移住し、その後地球へ移住してきた。

神は人に対して創造力を与えた。人間は神と同じ波動で出来ている。人間を作ることで神は自覚した。

あなた方自身が私であることをお知らせするために忘却という能力を作った。自分(神)を知るためには自分でないものを対極に作らなければならない。生まれる時はその前を知らないようにした。

天のうずめという神はいなかった。後年の人が作ったおとぎ話である。

肉体と精神について、精神は脳にはない。人は死んでも精神は生

きている。人は7層の光のエネルギーで出来ている。死んでも同じ形のオーラが残っている。神はどんな形にもなる。

日本では官司の形をしている。巫達は十二単衣を着て現れる。指導神は時代により変わる。

最後のQ&Aの時間にベスピオ火山に関する質問があり、来年(平成25年)に爆発があるだろうとの回答があつた。

☆ ☆

記紀に登場する神々について宇宙創成のときからの役割を示された。

神々においても創世の作業を担当されたようでここに八百万の神が必要であつたのであろう。

当日の参加者は会員9名、非会員23名、合計32名でした。今回のカセットテープは2000円です。事務局(07977・22・6425)まで

(関西日本サイ科学会会長

河野 明夫)

2-3)の連続撮影を検討する。最初は出ない(ORBが写らない)、次も出ない。筆者らの場合は、最大で8回目に出た(写る)。此の時、物質にフラッシュ光(約1/1000sec)を当てると反射、吸収、透過、原子内電子の軌道間移動に基づく緩和(赤外、可視光の色、白色発光)等が起きる。フラッシュを焚くと、撮影者自身のバイオフィトンをも含めて、周囲の物質は、フラッシュ光を吸収する(僅かに発熱する)。つまり活性化する。これらは電磁波(赤外線)として、あとで、物質から放出される事になる。フラッシュが繰り返されて、周りの物質の活性化が進み、空気中の赤外線(光)がORB形成に必要なエネルギー量になると、ORBが写ることになるのであろう。さらには、撮影者のバイオフィトン(光、素粒子)と体外のORBとが共鳴(共振)した時に、(3)の性質、つまり同一条件撮影の時に、同一種類のORBが写る(出る)様になるのであろう。

2-4)並びに(2)の水との親和性の解釈。大気中の湿度によりORBが大量に起りやすくなる。降雨により、大気中に電離が起きて、自由電子が生まれ、これが励起されると、大幅にORBが出やすくなる。晴れた日の地球は(-)に帯電しており、空からは(+)イオンが降下してくる。厚い雲がやって来て、雨模様になると、雲の上側は(+),下側は(-)に帯電し、雲の下側の地球は(+)に帯電する。雨が降り始めると、空気中のイオンや電子等は活性化して(+)イオン、(-)イオン、自由電子が増す(プラズマ形成)ことになる。地表面上にあるガンマー線(自然放射能)も電離を進めている。

なお、上述の式(1)(2)のモデルは、サイ(気)のモデルでもあるので、ORBとサイ「気」は同一である。なお、ORB内のマンダラ状模様は、ORBの構成要素(素粒子)の波の干渉縞模様であり、サイ(気)のカオスアトラクターの結果である、と判断している。

3-3) 外気制御装置の概略

空気中に存在する気(サイ)は薄いので、集積しないと、測定する事が出来ない。そこで、

外気制御装置(気エネマシン)を製作した。原形は長野県、伊那市分杭峠の入野谷(瞑想室)に設置(2006年)されており、6年後の現在も駆動・使用されている。マシンはピラミッド、水晶、無誘導コイル、磁石から成る。要点は、太陽電池(p, nジャンクション)から来る電流を無誘導コイルに作用させて零磁場を造り、外気を集積させることにしてある。水の電気伝導率変化を用いて測定したところ、中心から半径約1.5mの円形オーラ状のエネルギーが分布している事、並びに、水(気功水)のエネルギーを測定したところ、 $E=1.38\text{eV}$ の活性化エネルギー値を得た。これは赤外線領域の波動(周波数)を意味している。つまり赤外線の周波数域にマシンが集めた「気」が存在している。

さらに指尖脈波測定装置(複雑系カオス解析)を用いて、瞑想室入居前後(30分)の生体内の気の流れを計測したところ、カオスアトラクターの変化が認められ、フラクタル次元D2の減少(チャクラ、ツボからの光子放出部数の減少)として計測された。以上を基にして、現在は、ORBから得られる条件を加算した改良型「気エネマシン」装置を製作してテストしている。つまり、外気(ORB)の応用・実用化を含めて検討している。

サイ(気)としての現象を生起させる為には、零を加算させて活性化させる。つまり零を累積、活性化させ、不安定な状態(変換点)を造る。そして、意念(ASC)によって未知現象(サイ、超常現象)を生起させる。此の時、同時にカオス現象も生起してきて、機能することになる。意識の面をみると、ORBならびに気エネマシンともに、変性意識状態(ASC)で現象を生起させることになる。つまり、願い事を内に秘めて、知性や理性を薄めて意識を変性させ、無意識に近い変性意識状態(ASC)になり、リラックス集中する事が求められている。以上、気エネマシンとORBは機能的に同一である、と考えられる(残念ですが、ORBの写真は、省略させていただきました)。

2-4) 明暗の境目、水との親和性

夕方や朝方の明暗の境目の時間帯。雨の降り始め、または降り止めの折り目(境目、分岐点)の時間帯はORBが撮れやすい。また滝壺の付近で水しぶきが降っている場面でも、背景が暗い場合にはORBが写り易い。一例として、写真5~6を示す。2012年7月6日、夕方、小雨後、福島市、瀧洞神社。強い白色発光体状でヘイローのあるORB、干渉縞を持つてはいるが非対称で凸凹を含むマンダラ状をしめすORB、黒い目を持つORB、強い光の色違いのORB、等が撮影されている。

2-5) 米国の実験例

米国のM. LedwithとK. Heinemann (2007)らによると、ORBは次の(1)~(3)の性質を持つという。(1)撮影を継続すると、ORBの出現回数は大幅に増加する。初期には50回に一回位であったのが、約10万枚を越す現在では、10倍程度も増加している。(2)夕方で薄暗い時に写り易い。特に雨模様で湿度が高い時に写りやすい。しかし、室内でも背景が薄暗い(黒色)場合に写り易い。(3)ある一定の条件下では、同一種類のORBが写る傾向がある。

3. 検討と考察

3-1) ORBのモデル

ORBは、カメラの操作や撮影上のミスで生成する場合が多いと言う。しかし本物もあり、ORBは「知性や理性をもった意識体である」、「スピリットの投影である」等の意見や主張も多い。ORB像の出現や撮影状況は、実験内容から見て「撮影者とORBとの間に相互関係(作用)がある」と判断出来るので、一種のマクロPKであると言えよう。PKの場合、関与する物質はサイ(気)であり、サイ(気)には物質的な面と意識的な面があり、ORBも同一である。筆者らは、外気並びにORBの物理的な性質を式(1)(2)で表示している。意識に反応する面がプラズマとは異なり、サイ(気)としての、情報と機能を持っている。サイ(気)の概略をあげる。素粒子類似で波動性と粒子性を相補

的に持っている。つまり波動であり、粒子でもある。姿や形は不定で、非局所的に空間に広く拡散分布している。異なる波が、もつれあって、曖昧な状態で空間に幅広く拡散して存在しているが、観測・測定によって確率的に位置を固定(出現)する。また時間や空間の枠組みをこえて存在する性質がある。つまり距離に関係なく、遠方まで、瞬間的に移動する。此の時の搬送波としては、縦波(スカラー波、音)と横波(電磁波)が用いられている。エネルギー源としては、原子核の中の不安定な中性子の崩壊の時のエネルギーを使うことになる。

報告されているORB並びに自ら撮影した約880枚の写真(12年10月現在)を都合良く説明する為にモデル(仮定)を設定する。

$$(ORB) = (PSI\text{-pair群}) + \{ \text{バイオフィトン群} \\ (\text{微細身素粒子群}) \} \cdots \text{式(1)}$$

$$(PSI\text{-pair群}) = (\text{陽電子}) + (\text{電子}) + (\text{微細身} \\ \text{素粒子群}) \cdots \cdots \text{式(2)}$$

陽電子は宇宙から降り注ぐ宇宙線の中にもあり、さらに、陽子過多を持つ不安定な原子核のなかの中性子のベータ崩壊時に生成される、と言われている。電子は空気中で割合に安定に存在している。微細身素粒子とは身体を取り巻くオーラ、またはバイオフィトンの一種で、周波数の異なる多重多層の光子群からなる。これらは「+」(陽)と「-」(陰)が混ざり合って、大きな群を形成し、全体としては「中和」の状態にある。

3-2) ORBの出現

上述の2-1)、2-2)はORBがスピンを伴った素粒子群の集団として曖昧な状態で存在しており、煙(実体)に上載せして形成される事。つまり式(1)、(2)の状態にある事を意味しているのであろう。上述の2-5)の(1)の解釈。ORB出現が10倍ほども増加したとのことであるが、これは感覚が次第に増して鋭敏になり、ORBがそこに(近くに)居る事が判る(みえる)様になった為であると考えられる。



〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 日本サイ科学会発行

電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

公式サイト <http://homepage3.nifty.com/PSIJ/> ML申し込み先 office21@psij.mail-box.ne.jp

オーブ (ORB) の出現について

佐々木 茂美 苗 鉄軍

1. はしがき

オーブ (ORB) は、条件さえ選べば、誰にでも撮れるという。このORB出現が端緒となって、精神世界の可視化と大衆化が実現・進行する可能性がある。過去に、顕微鏡の発明 (1965、R. Hook) によって細胞が発見され、これが端緒になって近代生物、生理学にまで発展・成長した。同様にデジタルカメラの発明によってORBが発見され、これが端緒になって近代精神科学 (新分野) 樹立に役立つ事になるかもしれない。

オーブを出現させる為には、(1) 赤外線領域を写せるデジタルカメラを用いてフラッシュ撮影する。(2) ORBの出現をもとめて、無心になり、リラックス集中の状態ですシャッターをきる。(3) 宇宙神 (SG) の助けを求める、の3条件が必要であると判断されている。本稿では、主として、出現条件の物質的な面を扱う。

2. 出現の物質的な面

2-1) 打ち上げ花火の煙

一例としての写真1と写真2をみる。2012年7月28日 (土)、晴れ、夜7:30~8:00、福島市の花火大会場でフラッシュ撮影されたものである。日没後の天空に開いた打上げ花火から煙が飛び散り、それが消えかかった部分に、空と煙と円形煙状のORB群とが、三者が区別

し難い程の曖昧な状態で撮影されている。なお写真2に示す様に、球の中心が透き通って見えるドーナツ型のORB像もある。

2-2) 物質群とORB群の境目

一例として、写真3と写真4を示す。上述と同一の花火大会で、水平方向に向けてフラッシュ撮影されている。乳白、青 (小球)、赤 (小球) と様々な色合いのORBがあり、大小様々なORBが、多量に、撮影されている。発光の強い白色ORBにはヘイロー (halo) があり、さらに、非対称的なマンダラ状の干渉縞模様や、核らしい模様を内側に持つORBもある。特徴的なこととして、写されているORBの全部がほぼ同一の模様 (パターン) を持つ様子である。さらに、特徴的なこととして、地平線付近の人物 (物質) とORBとヤミ (空間) は、其々が区別出来ないほどに不鮮明な状態 (ボケル) で入り混じって存在している。

2-3) 繰り返し撮影の効果

夕方の時間帯、または朝の時間帯になるとORBは出現しやすくなり、写り易い。しかし、それらの折り目の時間帯 (分岐時間帯) でも、写らない場合がある。こんなときにどうすればよいか。経験として、同一場面を繰り返し、繰り返しフラッシュ撮影する。するとORBが撮れる。しかし出現後、暫くすると、また撮れなくなる。次に、繰り返すと撮れる様になる。